仲村 亜寿実
ピアノ・リサイタル

Asami Nakamura Piano Recital

2014
9 | 20（土）
開場 18時30分　開演 19時

王子ホール

主 催 | アート・ブリランテ
後 援 | 西南女学院高等学校同窓会関東支部

Program

ベートーヴェン
Ludwig van Beethoven

サリエリのオペラ《ファルスタッフ》より
二重唱〈まったく同じだわ〉の主題に基づく
10の変奏曲 WoO 73

10 Variationen über das Thema 'La stessa, la stessissima'
aus der Oper "Falstaff" von Antonio Salieri WoO 73

リスト
Franz Liszt

《コンソレーション》第3番
《巡礼の年第2年 イタリア》より
〈ペトラルカのソネット第47番〉
〈ペトラルカのソネット第104番〉

"Consolation" No.3
'Sonetto 47 del Petrarca' 'Sonetto 104 del Petrarca'
from "Années de Pèlerinage Deuxième Année-Italie"

リスト
Franz Liszt

《メフィスト・ワルツ》第1番　村の居酒屋での踊り

"Mephisto Waltz "No.1 The Dance in the Village Inn

Intermission

ブラームス
Johannes Brahms

《3つの間奏曲》作品117より 第1曲、第2曲
《ヘンデルの主題による変奏曲とフーガ》作品24

"Drei Intermezzi" Op.117-1, 2
"Variationen und Fuge über ein Thema von Händel" Op.24

Program notes

本日の演奏会は、変奏曲に始まり、変奏曲に終わります。ベートーヴェン(1770-1827)もブラームス(1833-97)も変奏曲の大家として知られたドイツの巨人です。一方、ハンガリー生まれのリスト(1811-86)の作品の多くも、ひとつの主題や動機の性格を徹底的に変化させていく「主題変容」という技法で書かれており、これも一種の変奏と見なすこともできるでしょう。変奏曲にはいくつかの種類があります。同じ小節数で主題を変形していく「旋律変奏」、あるいは主題の一部の特徴のみ(動機、和声、リズムなど)を変化させていく「性格変奏」などです。「性格変奏」は少し聴いただけでは変奏曲とは判らない場合もあります。ベートーヴェンの大作《ディアベッリ変奏曲》やブラームスの多くの変奏曲がこのタイプです。本日は、冒頭の主題がどのような形で変化されていくのか、そうした点にも耳をお傾けください。

◆ ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン

サリエリのオペラ《ファルスタッフ》より 二重唱〈まったく同じだわ〉の主題に基づく10の変奏曲 WoO 73

古典派の時代の変奏曲は、その多くがオペラや民謡などのよく知られていた旋律を主題としています。19世紀のパラフレーズのようなジャンルであったとも言えるでしょう。すでに知られた主題を用いる方が、聴衆の受けが良いことは今日でも同じことです。したがって作曲家自らの創作主題による変奏曲は数も少なく、作品の機能も違ったものであったと考えられます。ベートーヴェンにとって変奏曲は重要なジャンルであり、得意とする書法のひとつでした。クラヴィーアのための変奏曲は生涯に20曲ほど作曲されています(4手用2曲を除く)。独立したクラヴィーアのための変奏曲に限って言えば、17曲が《英雄》交響曲を書いた1803年以前の作品で、彼自身がピアニストとして活躍していた時代に集中しています。つまり、変奏技法はピアニストとしての即興演奏とも結びついていたと考えられるわけです。20曲のうち5曲が自作の主題による変奏曲で、それらは1800-09年に集中している一方で、1799年以前の12曲はすべて既存の主題によります。ディッタースドルフ(1739-99)、パイジェッロ(1740-1816)、サリエリ(1750-1825)などの有名な作曲家のオペラばかりでなく、民謡の旋律も使われました。

本作はサリエリのオペラ《ファルスタッフまたは3つのいたずら》の主題によります。ベートーヴェンのスケッチによれば、このオペラが1799年1月3日にヴィーンで初演された直後から、彼が変奏曲の作曲に取り組んだことが判ると言います。つまり彼は最新作を題材に、この変ロ長調の変奏曲を作ったことになります。主題は16小節。第1変奏から伝統的な旋律変奏ではなく、半音階などが駆使されていきます。第5変奏はミノーレ(変ロ短調)で、第6変奏からマッジョーレ(長調)に戻ります。対位法なども駆使しながら性格的に変奏が進みますが、第9変奏までの各変奏は16小節単位です。最後の第10変奏は「オーストリア風に」と書かれ、2拍子の主題がここでは3拍子の舞曲風の音楽に変えられ、さらに207小節もの長大なフィナーレとなっています。トリルに続いて冒頭の主題が再現して曲を閉じます。

◆フランツ・リスト

《コンソレーション》第3番［LW-A111/3, S172/3］

《コンソレーション》は全6曲からなる穏やかな曲集で、ニーチェの心を打ったのもうなずけます。1844年頃から着手され、現在2つの稿が知られています。有名な第2稿は1850年の出版。とりわけ有名なこの第3番は、第2稿で初めて組み込まれました。リストらしい静かな詩情にあふれています。ちなみに第3番の初稿は、のちに《ハンガリー狂詩曲》第1番となりました。

《巡礼の年第2年イタリア》より〈ペトラルカのソネット第47番〉〈同第104番〉［LW-A55/4 5, S161/4, 5］

1837年7月から39年11月にかけて、リストはダグー伯爵夫人とともにイタリアに滞在しました。各地を旅行した際、さまざまな芸術作品を目の当たりにします。このイタリア滞在中に、イタリアの美術や文学を題材とした曲集《巡礼の年第2年イタリア》に着手したのです。

イタリア・ルネサンスの大詩人ペトラルカ（1304-74）は、ラウラへの愛を俗語詩集『カンツォニエーレ』のなかで歌い上げていますが、リストはその中の3つのソネットに作曲しました。その歌曲稿とほぼ同時期にピアノ稿も作曲しています。その後、改訂されたピアノ稿が、今日《巡礼の年第2年》第4-6曲として知られている3曲です。本日はその中の最初の2曲が演奏されます。詩の大意を示しておきましょう。

第4曲〈ペトラルカのソネット第47番〉
祝福あれ、彼女の美しい目に魅了された時、場所、祝福あれ、初めての甘い切なさ、私の心を差した弓矢、祝福あれ、彼女の名を呼んだ声、ため息、祝福あれ、彼女だけを思う私の想い。

第5曲〈ペトラルカのソネット第104番〉
平和でも闘いでもなく、飛翔と思えば地で凍てつき、愛の神に殺されも生かされもせず、死を望みつつ助けを請い、泣き笑い、死も生も厭わしく思うようにさせたのは、貴女なのです。

◆フランツ・リスト

《メフィスト・ワルツ》第1番　村の居酒屋での踊り［LW-A189, S514］

リストは「ファウスト」に関わる作品を10作近く残しています。この《メフィスト・ワルツ》第1番は、オーケストラのための《レーナウのファウストによる2つのエピソード》の第2曲〈村の居酒屋の踊り〉のピアノ稿です。1860年頃に作曲。

ご承知のように、メフィストとは伝説上の人物ファウスト博士と契約を交わした悪魔です。文学作品としては、ゲーテの『ファウスト』が最も有名ですが、リストのこの作品は、ハンガリー貴族の家に生まれた薄幸な詩人レーナウ（1802-50）が1836年に書いた叙事詩『ファウスト』と関係しています。悪魔メフィストの官能的な世界を題材としつつ、人間に共通する普遍的な世界を表現しているといってよいでしょう。レーナウの叙事詩からの引用が初版には標題として印刷されていますので、大意を示しておきましょう。

メフィストフェレスに連れられて、ファウストは陽気に騒いでいる村の居酒屋に来る。そして彼は、肉惑的なひとりの女をみそめる。メフィストフェレスはヴァイオリンを弾き始めるが、その演奏は官能的で甘く、時に恐ろしげに、時に暴力的でさえある。ファウストは、その魔法の音に導かれて、ナイチンゲールの歓びの鳴き声とともに、女と森へと消えていく。

◆ヨハネス・ブラームス

《3つの間奏曲》作品117より 第1曲 変ホ長調 第2曲 変ロ短調

若々しい初期の作品に比べると、1892-93年に集中的にブラームスが作曲した晩年のピアノ小品群（作品116～119、20曲）は、内省的で深く叙情的です。この作品117は1892年の作曲。

第1曲の冒頭には、ヘルダーが編纂した『諸民族の声』所収のスコットランドの詩「不幸な母の子守歌」からの引用があります。「穏やかに眠れ、我が子よ。お前が泣くのを見るのは悲しい」。さらに1892年11月9日の手紙でもブラームスはこれらの3曲のことを「自分の苦悩の子守歌」と呼んでいます。三部形式。

第2曲はブラームスが書いた最も美しいメロディーのひとつ。静かに穏やかに心に響く音楽です。A-B-A'-A-Bという構成ですが、調構造からみてソナタ形式と言えるでしょう。

《ヘンデルの主題による変奏曲とフーガ》作品24

さまざまなジャンルに傑作を残したブラームスにとっても、変奏曲はやはり重要なジャンルであり、得意とする書法でした。19世紀後半の音楽家のなかでも、保守派の代表格として知られるブラームスは、パレストリーナ（1525/26-94）、J.S.バッハ（1685-1750）、ヘンデル（1685-1759）などの過去の音楽や学術版全集などを収集し、1850年代後半から古い音楽を研究した上で、自ら演奏していました。そうした彼が対位法や変奏曲という伝統ある語法に魅せられたことは、うなずけることです。1869年2月の手紙で次のように述べています。「主題と変奏では、私にとって殆どまったくバスだけが重要なのだ。バスは私にとって神聖なもので、バスは私が自分の物語を構築する確固とした土台なのだ」（西原稔『ブラームス 作曲家 人と作品シリーズ』音楽之友社より引用）。彼がバス声部を如何に重視していたかが判る有名な言説です。ピアノのための独立した変奏曲は生涯に8曲（4手用2曲含む）ほど残しましたが、それらは1860年代初めまでの若い時期にほぼ限られています。

変奏曲の大家ブラームスのなかでもとりわけ評価が高い作品が、この作品24です。1861年9月に完成。翌10月11日のクララ・シューマン（1819-96）に宛てた書簡で、彼女の誕生日のために変奏曲を作曲した旨を書き送っています。クララがもっていた自筆譜には「愛する女友達のための変奏曲 ヘンデルのアリア」と書かれています。彼女は12月7日にハンブルクで初演したのちも、しばしば演奏していました。

「ヘンデルの主題」とは、クラヴサン組曲第2集第1番の「エア」の主題のことです。ヘンデルも主題と5つの変奏から構成されている変奏曲を書きましたが、それは旋律変奏でした。それに対して、ブラームスは8小節（反復を入れると16小節）の主題に続けて25の変奏曲を配し、主題の部分的要素である動機、和声、リズムなどを変奏の対象とした性格変奏を作り上げました。各変奏の小節数は16小節分が保持されています。最後の長大な4声のフーガでは、反行形を用いたり、音価を拡大しながら、かなり自由な書法によってクライマックスを築き上げていきます。

音楽学　福田 弥

Profile

仲村 亜寿実
Asumi Nakamura

福岡県出身（西南女学院高等学校卒業）。武蔵野音楽大学大学院音楽研究科博士後期課程（研究領域：器楽）を修了し、博士号を取得。

武蔵野音楽大学卒業演奏会、同大学新人演奏会、同大学院修了生による研究演奏会、第76回読売新人演奏会、第7回日本ピアノ調律師協会新人演奏会等に出演。武蔵野音楽大学管弦楽団、東京ユニバーサル・フィルハーモニー管弦楽団、東京ニューシティー室内合奏団と共演。同大学ウィンドアンサンブルのアメリカ研修旅行に参加し、シカゴにおけるMidwest Clinic等、各地での演奏会に出演。外務省所管平成18年度日露青年交流事業「日露学生フォーラム」の音楽代表としてモスクワに派遣。「ラ・フォルジュルネ・オ・ジャポン2011」の特別展において演奏。第4回九州音楽コンクール最優秀賞、第11回日本クラシック音楽コンクール全国大会入選、練馬文化センター第22回新人オーディション優秀賞、等を受賞。Musicalta 2006（仏）、Salsomajjiore Masterclass（伊）、Umbria Estate 2009 & 2011（伊）等、海外でのマスタークラスを受講し同音楽祭に出演。平成16～19、23年度福井直秋記念奨学生。

ピアノを堤まり、山廣絢子、堺康馬、イェネ・ヤンドー、ジョン・ダムガード、エレーナ・アシュケナージの各氏に、ピアノ伴奏法を故ヤン・ホラーク氏に、室内楽をクレメンス・ドル氏に師事。

現在、演奏活動を行うとともに、武蔵野音楽大学、同大学附属高等学校、及び同大学附属入間音楽教室、柴田音楽教室において後進の指導に当たる。